

東京

「其の日」暮らし

＝ドイツ編＝



ファッシングに行ってきました

いきなりファッシングと言われても「何それ？」と思われるでしょう。私はまさしくそう思いました。ドイツに来る前にインターネットで色々情報を集めていたときに見たことのある単語で、お菓子を配ってくれる仮装行列と解釈してそのまま忘れていました。この二月ぐらいから妖精やお姫様の变身セットなどがスーパーで売り出されているし、パン屋さんではドーナツがかわいくラッピングされて10個セットで売られていたり「何かお祭りが始まるのだろうなあ」と言う感じでそのまま過ごしていました。ある日、友達とバスで会った時に彼女が娘の仮装のための妖精の羽と妖精の杖を持っているのです。そこで「あのお菓子のくれる仮装行列」を思い出したのです。そうして先日、旦那さんが「そういえば今日は市内でパレードがあるって聞いたよ」と教えてくれました。ちょうど天気も良くて暖かいしお昼前に友達と会う約束をしていたので、そのままファッシング見物に出かけたのです。平日のお昼なのでそこまで人出はないであろうとタカをくくっていました。ところが！ 現地に着いたときはすごい人・人！ 人！！ 子供だけでなく大人まで。みんな仕事じゃないの？ と思ってしまいました。しかもただの見物人の格好ではないのです。ペインティングをしている人もいればいろんな衣装を着ている人まで色々。もちろん子供達も妖精や消防士、ピエロの仮装をしパレードの通りに陣取っています。ベビーカーを押してはなかなか前にも行けず、人混みの後ろから行列が来るのを待っていました。やっと音楽と共に行列が来ました。飾りを付けたトラックから仮装をした人たちがお菓子を投げて配ります。その周りを不思議なお面を付けた人が練り歩くのです。道理で子供達が一番前に陣取っているはず。後ろにいた私たちには前にいた大人の人が飴やグミを分けてくれました。そして感想は・・・規模は小さいけれど観客も一緒に熱狂する御堂筋パレードとしまいました。思いがけなく大阪を思い出すお祭りでした。面白いこと



仮装行列



パレードの音楽隊

にほとんどの店は休業中でした。大人の見物人も多いはずだと思わず納得。そしてその時期に売り出されているファッシングのためのドーナツ（あるパンやではベルリーナと書いて

ありました)を食べてお祭り気分を満喫して家路についたのです。

家でファシングについて調べるとドイツでは「ファシング」ですが他では「カルバナル」「カーニバル」と呼ばれる謝肉祭のことだったので。このお祭りの後、イースター(復活祭)までの40日間は断食をする人もいます。

PUKIPUKI・N

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞